



消防大学校だより

上級幹部科における教育訓練

消防大学校では、消防に関する高度の知識及び技術を総合的に修得させ、現に消防の上級幹部である者の資質の向上を目的として、総合教育「上級幹部科」の教育訓練を実施しています。

令和5年度の第87期では、46名の学生が1月15日（月）から1月31日（水）までの17日間にわたる集合研修を行いました。

48名の定員ですが、残念ながら1月1日に発生した令和6年能登半島地震により学生1名が直前での辞退となり、更に学生1名が教育途中に人事異動により退校したことから、46名となりました。

また、緊急消防援助隊の派遣もあり、直前まで入校を悩んでいる学生も複数おりましたが、所属の協力もあり、なんとか入校することができました。

送り出してくれた上司や同僚への感謝と業務を任せて職場を離れる心苦しさを葛藤を抱えながら、必ず組織向上のためのヒントや手がかりを掴み取って帰るといった熱い思いを胸に、研修に臨むこととなりました。

研修では、緊急消防援助隊の派遣中で忙しい所ではありましたが、原消防庁長官、五味次長の講話をはじめ、消防庁幹部による最新の消防行政の動向について、リモート講義により行っていただくとともに、消防大学校客員教授等による危機管理、安全管理、消防管理概論やトップマネジメントなどの講義、全国消防長会吉田会長による講話を通して、組織の上級幹部として必要な知識、役割や心構えについて習得しました。

指揮シミュレーション訓練では、大規模災害等発生時における、受援都道府県、被災地消防本部及び緊急消防援助隊の役割等について理解を深め、特に受援に関する能力の向上を図りました。

また、実火災体験型訓練では、火災の成長過程やフラッシュオーバー発生前の兆候など火災の性状について学んだほか、危機管理広報の実習では、組織内で不祥事が起きた際の報道対応（模擬の緊急記者会見）を行い、危機事案発生時の適切な広報技術の向上を図ることができました。

そのほか、昨今続いている消防職員の殉職事故を受け、新たに安全管理の講義を加え、組織としての安全管理についても学びました。

研修を終えた学生からは、「現役消防長の方との意見交換では、組織の大きさによらず、組織のトップの孤独さや自らが最後の砦となり判断・決断する厳しさを感じることができた。」「安全管理の徹底と殉職者を絶対に出さない組織体制を構築する必要性を再認識しました。」「志を同じくする全国の仲間と様々な情報を共有し、意見交換を通じて交流を深められたことは大変意義深く、この出会いを通じ、ネットワークと協力体制が構築できたことは、かけがえのない財産。」「著名な方々

の講義も大変わかりやすく経験に基づく内容が多かったのでもって有益でした。」などの感想をいただきました。

現在も、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として制限がありましたが、公共交通機関を使用せず貸切バスなどによる学生自主企画視察研修が実施できることとなり、週末には、東京消防庁の江東航空センター、即応対処部隊、災害史安全教育室、更には横浜市消防局の司令センター等の視察を行うことができました。消防大学校の講義だけでなく、自ら企画した視察研修により、様々な体験や学びを得ることができ、さらには絆も深まることから、今後もぜひ継続していければと思います。

今後は、本大学校で学ばれた知識と磨きをかけた判断力に加え、全国の仲間との絆を活かして的確な消防行政運営、地域住民の安全安心、職員の安全管理に邁進いただけると信じています。



長官によるリモート講義



指揮シミュレーション訓練



模擬の緊急記者会見



消防大学校だより

女性活躍推進コースにおける教育訓練

消防大学校では、女性活躍推進コース第8回を開催しました（令和5年12月14日～12月22日）。

このコースは、女性消防吏員で消防司令補及び消防士長の階級にある幹部候補生に対して、キャリア形成を支援し、職域拡大等を目的とした知識及び能力を修得させることを目的に実施しています。全国の消防本部から48名の学生が入校前のeラーニングによる個別学習を経て、2日間のリモート講義と5日間の全寮制の集合教育を受講しました。

リモート講義では、最新の消防行政の動向、リーダー育成や人事管理等の幹部職員として必要な知識を学び、集合教育では、部下指導のための教育技法やペップトーク、説得技法等の講義を受講しました。その他、キャリア形成支援のための、ロールモデルとなる先輩女性吏員の講義や緊急消防援助隊の派遣経験のある女性吏員の講義を受講しました。

課題研究発表では、各自与えられたテーマについて、事前に行ってきた課題研究の成果をグループごとに発表し、各本部での課題や今後の解決策等について、情報共有しながら活発な意見交換を行うとともに、先輩女性吏員のコメンテーターから様々なアドバイスをいただきました。

また、警防面の更なるスキルアップを目的とした実技訓練も実施しました。

「指揮訓練Ⅰ」では、指揮隊運用の図上訓練を繰り返し実施し、住宅火災時の基本的指揮要領を学びました。その後、「指揮訓練Ⅱ」の指揮シミュレーション訓練では、指揮隊と活動部隊との情報共有や部隊連携の重要性などを学び、現場を統括する判断力・対応力を養い、現場指揮技術の向上を図りました。

「現場指揮と安全管理」では、事故事例から現場指揮に必要な安全管理についての知識を講義で学び、「火災現場指揮」では、火災現場における活動を想定し、現場と同様の熱、煙の状況をつくり、中性帯やロールオーバー等の火災性状を観察するとともに、注水による熱環境の変化や脱出時間を確保するための注水技術を学び、現場の安全管理能力の向上を図りました。

本コースで、幹部として必要となる知識及び技術の習得を行うとともに、全国の女性吏員の仲間と共通課題に取り組み、今後のキャリア形成等について情報共有することで、消防職員としてだけでなく、個人としての成長と自己実現への意識の高揚になったと考えられます。

学生からは、「同じ悩みを持った仲間と情報交換できたことで、悩みや不安を解消でき、前向きな気持ちになった。」「研修を通して、キャリア形成の必要性をあらた

めて認識し、将来ビジョンも描くことができ、モチベーションの向上に大変有意義であった。」との声がありました。

今後は、全国の仲間とのネットワークを構築しつつ、研修で得た知識や技術を活かして、各消防本部での課題解決に積極的に取り組み、すべての消防職員が活躍できる組織が実現していくことを期待します。

消防大学校では、各学科、コースともに定員の5%を女性消防吏員の優先枠として設定し、女性の入校を推進しています。女性消防吏員の皆様の消防大学校への積極的な入校をお待ちしております。



講義の様子



指揮シミュレーション訓練



ホットトレーニング

問合せ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712